

## 14:40 15. 学校薬剤師制度の今日的意義

○宮本法子(東京薬科大薬学部), 高橋 文(日本薬史学会)

## 15:00 16. 日米欧薬史学会ウェブサイトの比較

○五位野政彦(東京海道病院薬剤科), 宮崎啓一(三栄化工(株))

## シンポジウムD「薬学教育の黎明」(15:20-17:00) 座長 中島憲一郎/山川浩司

15:20 17. 日本における薬学, 薬剤師が誕生してから150年 日本薬史学会会長 山川浩司

15:40 18. 江戸時代の薬物教育 大阪大学医学部 米田該典

16:00 19. 明治・大正の薬学教育の中の化学教育 長崎大学環境科学部 富永義則

16:20 20. 医薬の科学から見た日本の薬学 日本薬史学会 川瀬 清

16:40 21. 長崎における薬剤師会の設立と活動 長崎市薬剤師会会長 永田修一

閉会の辞 日本薬史学会2007年会 副会長 中島憲一郎

## 例会記録

平成20年1月例会 平成20年1月26日(土)

順天堂大学医学部9号館2階8番教室

1. 佐藤尚中の訳書とその影響 酒井シヅ
2. 大隈重信と日本の精神衛生運動 岡田靖雄

平成20年3月例会 平成20年3月22日(土)

順天堂大学医学部9号館2階8番教室

1. 画像で見る脈診法 宮川浩也
2. テレビドラマ「ER」にみるアメリカの社会と医療の現代史 渡部幹夫

## 例会抄録

## 江戸時代における鍼灸医学

——その思想の沿革——

Vigouroux MATHIAS

日本の鍼灸医学の現状を, 特に活動している流派についてみると, 特徴といえば, その多元性であろうと思う。しかも, その多元性は日本の医療のあらゆるレベルでも見られるようである。現代の日本で鍼灸の伝統を教える勉強会や学派に見られる多元性を知るためには, 先ず江戸時代まで遡り, 当時におけるその思想や学派の多元性について調べる必要があると考えている。それは, 独自

化した日本の鍼灸医学が, 江戸時代を通じて中国医学から離れて, 日本化の過程を通して独特なものとなり隆盛したと言われているからである。江戸時代の鍼灸医学に関する学派についての整理をして, その思想の沿革を述べてみると, 次の特徴が現れる。

- ①意斎流や杉山流を中心としながら, 中国の理論・針術から離れた流派と, 中国の理論は温

存しつつ針術は離れた流派の二つの流れがあったという点

②鍼灸医学を志す者への教育の方法

③江戸時代の鍼灸流派の間における思想の流通や、学派間の関係

## 第一の特徴について

中国のひねり鍼を唱えた吉田流などの当時の他の鍼灸流派に比べ、意斎流の打鍼法と杉山流の管鍼法は圧倒的に革命的であった。その日本独自の鍼灸医学の誕生に業績を残した流派の傾向には、いくつかの流れがあると考えている。安土・桃山時代には二つの流派の流れが最初に現われた。一つには、道三の流派のように中国の鍼灸の理論や技術を基にした流派であり、もう一方は打鍼流や管鍼流のような、中国鍼灸医学から離れて日本の鍼灸を編み出した流派である。後者の流派はさらに二つの流れに分類できる。一つは打鍼流の流れで、中国の鍼灸医学の理論や技術を離れ、新しい針術のみならず理論も編み出した流派であり、もう一つは杉山流で、新しい技術を編み出したが、理論は中国鍼灸医学に基づいている流派である。しかし、注意したいことは、意斎流が新しい理論を考えたというよりも、中国の鍼灸医学の理論を自分が創案した針術に適合させたのだらうと考えている。つまり、意斎が編み出した新しい技術は既成の中国医学に適合する部分が無かったために、そのやり方を中国医学の理論で説明したため、中国医学の理論を基に日本で編み出された新しい日本独自の鍼灸の理論や技術となったと考えている。

## 第二の特徴について

安土・桃山時代に曲直瀬道三が医学校、いわゆる「啓廸院」を開いた後、同時に多くの弟子を養成する私立学校のようなところが現われて、医学の教育には新しい風潮がみられはじめた。杉山和一も鍼灸の教育、特に盲人の教育の分野で大きな役割を果たした。杉山は「鍼治学問所」という学校で、当時の鍼灸の低い教育レベルを高めることを目指した。学生を教授するための杉山の学舎は45ヶ所あったが、当時鍼灸の教育が公式な機関

を通じてなされた点も、また杉山の優れた業績だと言える。

出版された鍼灸古典籍も見てみると、当時は鍼灸師の教育レベルが、医療関係者の心配事の一つだったことが分かる。例えば本郷正豊の『鍼灸重宝記』の序に書いてあるように、鍼灸のことをあまり知らないのに鍼灸をやる人が多いという批判が見られ、そのため、道三や杉山のような学校だけではなく、鍼灸入門のような手引書の出版も増えてきた。このような鍼灸入門の手引書は当時の鍼灸教育に対する需要に応じたものと考えている。江戸時代初期に出版された『鍼灸要法指南』、『鍼灸拔粹大成』、『鍼灸重宝記』は江戸時代における鍼灸三大臨床書と言わべき典籍で、鍼灸の本道が説明されている便利な臨床書であるだけでなく、通常漢文で書かれた医学書と比べて、和文、平易に書かれたので、教育レベルの低い鍼灸師をも対象していたことが分かる。

## 第三の特徴について

江戸時代からは学派や流派が増えて、派閥主義という傾向も見られるようになった。その結果として、学派間の競争により、臨床の現場が専門化した。しかしこの学派間の競争は、もう一つの結果をもたらした。それは、自分の学派の理論や治療方法を改良するために、他学派の思想からヒントを得るということであったと考える。

浅井南阜の『名家灸選』を見てみると、当時の流派の思想はその流派内の思想だけに固執することなく、むしろ流派の間には、自由な思想の流通や交換があったことが伺える。かたくなであった吉益東洞や菅沼周桂はさておき、それぞれの流派は互いに影響し合っていた。これはある意味においては実証主義であり、この互いの影響無くして、思想や技術の発展はありえなかった。後世派、古方派に対して、両方の学派の思想を合わせた折衷派という独立した学派も存在し、また浅井南阜のように折衷派にも属せず、そして自分の考えにも固執することもなく、他学派の思想からも影響を受け、習合したという流れもあった。

また、本郷正豊の『鍼灸重宝記』を見てみると、当時の鍼灸流派の間に思想の流通があったことが

分かる。本郷正豊については詳しく知られていないが、彼は打鍼の開祖である夢分流の御蔭意斎の曾孫であり、母系の家を継いだので、本郷を名乗った。『鍼灸重宝記』の内容は当時の鍼灸の本道を詳しく説明しており、臨床教育のテキストとして大変優れたものであった。本郷正豊は打鍼系の人であったので、『鍼灸重宝記』の主要な内容は打鍼についての記載であると思われるがちである

が、当時における鍼灸のすべての治療方法について、意外に客観的に詳しく説明がなされている。つまり、鍼灸の臨床教育の意志があった上に、打鍼の系統でありながら、本郷が自分でも臨床で使いこなせるほど、他流派の治療方法を詳しく認識していたことが伺える。

(平成19年10月例会)

## 明治28年に翻訳出版された ビルロートの看護書について

平尾真智子

19世紀、ウィーンの外科医ビルロートの著わした看護書が明治28年(1895)年に日本でも翻訳出版された。この本は本国でも版を重ね、各国語に翻訳された看護書のベストセラーであり、日本でも看護婦養成のためのテキストとして用いられた。この本にはナイチンゲールの看護書の一部が収録されていたため、日本の看護界にナイチンゲールの看護を紹介する役割も果たした。

ビルロート(Christian Albert Theodor Billroth 1829-1894)はドイツ生まれ、ベルリン大学で外科・病理学を研究し、1860年チューリヒ大学外科学教授、1867年ウィーン大学外科学教授となる。1881年胃がんの胃切除に成功。『一般外科病理』(1863)、『病人看護学』(1881)は版を重ね、各国語に翻訳され、日本語訳もでている。『病人看護学』の原書名は“Die Krankenpflege im Haus und Hospital — Ein Handbuch für Familien und Krankenpflegerinnen von Dr. Billroth”で1881年初版、1888年第3版、1894年第5版、1914年までに第8版、1919年に第9版がでており、世界9ヶ国語に翻訳されている。日本語訳翻訳者の佐伯理一郎は医師で京都看病婦学校の教師であり、原書第3版(1888年)を翻訳、明治28年に『普通看護学』として吐鳳堂(東京市)より出版した。全2冊(巻上・巻下)、全389頁、定価は巻上35銭、巻下50銭である。初版、

第2版は1年で売り切れ、発刊後6年間で7版、1万冊を越えた。第18版(大正2年)の発行が確認されている。

本の表紙にはドクトル佐伯理一郎訳補、普通看護学とあり、序文は北里柴三郎、原序はビルロート、例言は佐伯理一郎が書いている。構成は第1編目次、誘導編、第1章～第3章、第2編目次、第4章～第9章、付録となっている。原序にはビルロートが推薦する看護書としてナイチンゲール著『看護学の栞』、ワイマール出版『看護婦の袖珍教科書』、など6冊があげられている。また序文は北里柴三郎の看護観が表現されている貴重なものである。北里は佐伯理一郎と同郷(熊本)で、ビルロートの看護書への信頼があり、京都看病婦学校の卒業生を養生園の看護婦として採用している。各章の内容は第1章病室、第2章久しく病床に在る患者の看護法、患者の特異性及看護婦の監督に関せるナイチンゲール女史の訓戒、第3章医療的看護の通則、第4章手術の準備及包帯術、第5章熱病一般の観察及看護法、第6章伝染病の看護法、予防法、消毒法、第7章神経病及精神病の看護法、第8章救急看護法、第9章滋養食物論、付録人体解剖学及生理学、となっている。日本語訳の第2版からは原書第5版にある小児看護法が追加されている。この看護書の特徴として、①看